

## 序 文

経済学部長 中村 智一郎

本学は昭和41年に初代学長の長戸路政司先生によって創設され、昨年創立30周年を迎えた。そこで今回の敬愛大学研究論集第52号を記念論文集として刊行することにした。

ところで経済学会運営委員会の編集により『千葉敬愛経済大学研究論集』創刊号を発行したのは昭和43年11月のことであった。当初は年に一回であったが、昭和51年以来年二回発行を続けている。なお昭和63年校名変更により本論集も『敬愛大学研究論集』と改め現在に至っている。

本学は学生総定員400名と言う最小規模の経済単科大学として発足したため教員も少なかった。このため研究誌発行も少なかったが、これまで合併号の発行は一度だけで、幸いに定期的発行を重ねて今回52号を数えるに至ったのである。現在経済学部の学生数も増加し、研究体制も整備された。また今年度は国際学部が新設され、学生総定員は併せて2000名を越える規模となり漸く発展への展望も見えて来たところである。

平成元年長い間休眠中であった経済研究所を改組、経済文化研究所として復活すると共に、本論集の発行主体である経済学会運営委員会と研究所運営委員会とを一体化して本学研究分野の事業を一元的に担当することとした。こうして本学専任教員の著書を研究叢書として刊行する体制も整い、既に七冊の叢書を出版した。研究所紀要も従来の研究所報から装いを改め、研究発表誌として第2号を発行することが出来た。また本学では全学生にゼミを必修としているが、3・4年次生の専門ゼミにおける努力の到達点としての卒業論文の要旨集第一号を本年3月に発行し、学生並びに各方面

に配布することも出来た。

以上は大まかな本論集を巡る30年の経緯である。最後に今回の記念論文集の刊行に際し、論文を寄せられた諸先生に謝意を表するとともに、上の諸事業に加えてこの論文集編集の煩勞を担って下さった経済学会運営委員の諸先生に深く感謝の意を表する。